

# 読書

県図書館には、子どもたちが直接本を手にとつて楽しめる児童コーナーのほか、絵本や児童図書の研究書や参考図書など関係資料四万七千冊を備えた児童図書研究室がある。一九七〇年、当時の故河村譲館長の提案で

## 県図書館に行こう

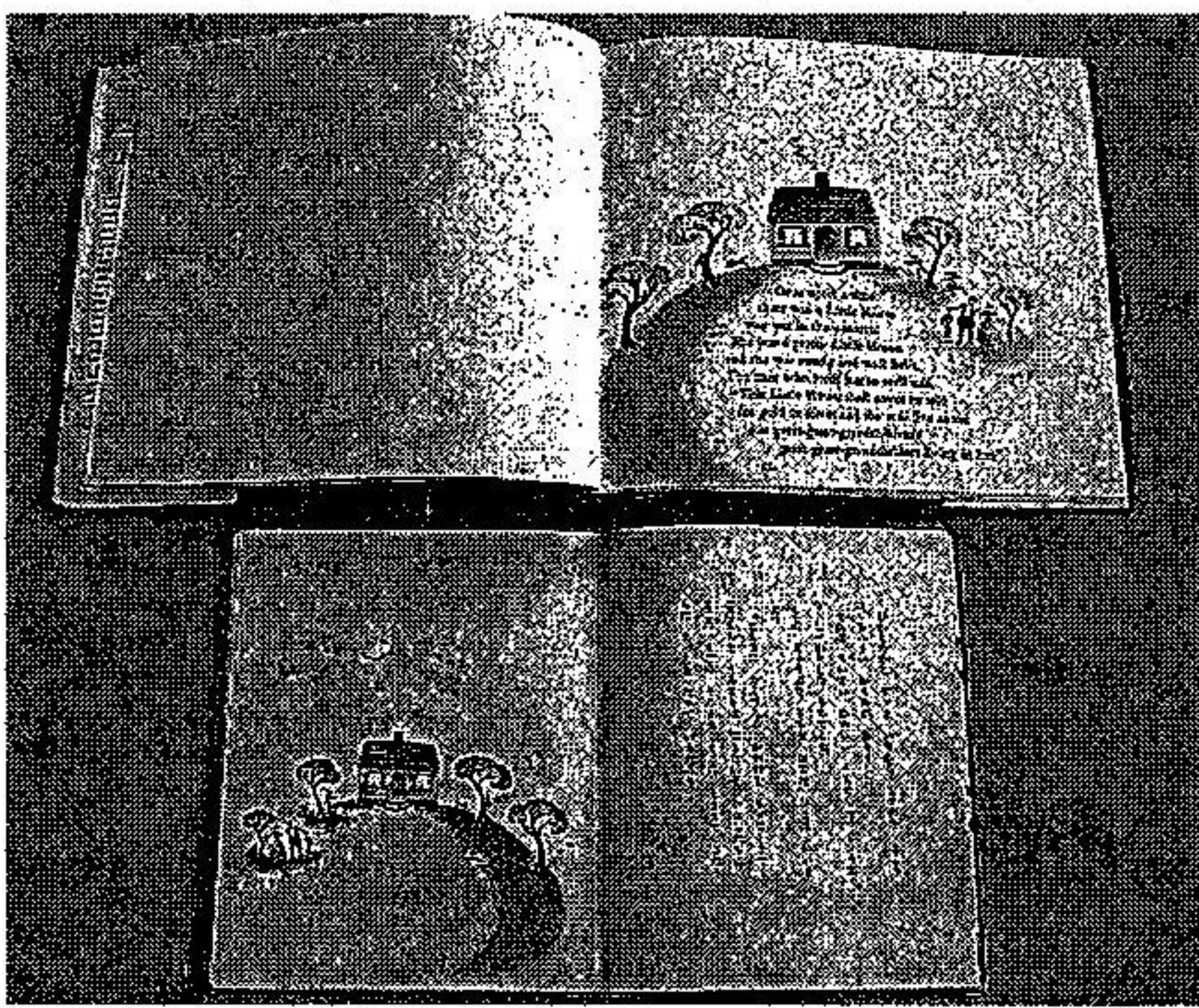
こんな情報<sup>①</sup>が待っている

児童図書展示室として設けられ、一時児童図書研究センターとされた後、今の名称で定着した。児童図書の出版状況を知らりたい人、子ども本を選ぶために実物が見たい人、児童図書や子どもの読書について学びたい人のために資料を収集。豊かな子ども読書環境づくりを目指し、その読書活動支援の拠点となることを狙いとしている。

## 同じ絵本で大きな違い

児童図書研究室

者ならずとも興味深い。また、原本と翻訳本が揃っている資料ではその相違点を楽しむ一方、比較することで社会の中で



児童図書研究室が所蔵する参考資料のうち、「ちいさいおうち」の原書②と、初めて出版された翻訳書

ち」(バージニア・リー・バートン文・絵、石井桃子訳)。一九四二年に米国で、そして日本では五四年に出版された。プロバレリーナを目指したことがあるバートンの作品は跳躍感にあふれ、絵と文とが一体化し、バランスの取れた点が特徴だが、日本では最初それが理解されず、絵と文が左右のページに分断され、訳者の名前も記されなかった。現在出版されている絵本では、著者の意図が理解されて原作に沿った形となり、訳者の名前も表示されている。小さな絵本の中にも、社会の変化が反映されている。そうした資料があふれているのがこの児童図書研究室である。